

校長室だより

NO.2 平成29年 4月28日

松原市立松原東小学校長 吉岡 英治

二十四節季 「立夏（りっか）」

5/6頃四月節 八節太陽視黄経 45度

夏の立つがゆへ也（暦便覧）この日から立秋の前日までが夏。野山に新緑に彩られ、夏の気配が感じられるようになる。かえるが鳴き始め、竹の子が生えてくる頃。

学校のツツジもいろいろな花をつけてくれています。日頃の管理のおかげで、春は花が絶えません。（<m()m>）



東小の授業の一コマ、3年の算数「かけ算（かける数、かけられる数）」の場面です。4人で話し合いをして、理由を説明しあっていました。

今、授業方法が、話を静かに聞く講義形式から、話し合いそして説明する力を求めるものになってきています。授業研究には、今後とも取り組んでいきます。

研修会から

アニメの影響力は大きいものですね、横綱稀勢の里の化粧まわしに、「北斗の拳」の3兄弟のものが使われるとか…

はやりのマンガやアニメが世代共通の特徴を生み出しているのではないかとこの視点から、世代の状況分析を行い、今20代の「ワンピース世代」は自由と仲間を価値を置き、40代「ガンダム世代」は理不尽な組織にとらわれているという話を研修会で聞きました。以下は、『「ワンピース世代」の反乱、「ガンダム世代」の憂鬱』すずき・たかひろより

ワンピースは、1997年から『少年ジャンプ』に連載が始まり、今年14年目に入っている。人気は衰えず、これまで発行された単行本が2億3000万部。『少年ジャンプ』はひとりの力はないといわれるが、それでも毎週300万部出ている。

ワンピースというマンガは、海賊王になろうと自分で決めて海に出た主人公ルフィが、一人ひとり仲間を増やしていった、今は8人の仲間たちと新世界に向けて自分たちの海賊船で航海を続けていくストーリー。ワンピースの価値観は「自由」と「仲間」であり、今の若者たちは、仲間を少人数持っていて、その仲間自分たちの日々の暮らしや人生における第一軸を作る。「上の世代」にとっては所属する組織が第一軸なのに、彼らはそうではない。会社や組織は第二軸になっている。生活

とワンピースの構成との類似性の発見が、世代特徴と絡めて考える端緒になった。

ガンダムは、宇宙世紀と呼ばれる未来の世界を舞台にして、それまで子供向けだったロボットアニメを一気に大人向けにした作品。放送当初は人気が出なかったが、熱烈なファン層ができ、放送が終わった1年半後に今度は映画になる。映画になったころからブームに火がついた。

大人向けだけに、現実世界に近い権力闘争や組織同士の抗争も繰り広げられる。それが、40代の世代に刺さった。地球連邦軍に属する主人公アムロ・レイといったヒーローが出てくるとともに、敵対するジオン公国軍の中に、シャアというこれも人気の高いキャラクターが出てきて、おのおの自分の信念に従って、1年戦争と呼ばれる未来の宇宙での戦争を互いに戦い抜く。その状況が、40代の層の社会的立場と重なっている。自分の信念に従って、と言ったが、地球連邦軍もかなり「腐り切った組織」。その組織の事情に左右されながら、所属する論理に従って戦う。その結果、何が正義で何が悪かに関して、登場人物の間で葛藤がある。組織の論理を致し方のないものとのみ込んで、個人としてはつらい決断をしていくところに、今の実生活と重なる部分がある。

さて、どちらが正解なのでしょう？この答えは、誰にも出せないと思います。最初聞いたときには、ワンピース世代の方がいい生き方かなと思っていましたが、社会・組織に属して生活していること、自分にとっての「自由」や「仲間」とは、どちらも大切なもので、二者択一のものではないと思いました。

余談にはなりますが、20代と40代の間は「ドラゴンボール世代」とも考えられ考察の対象だそうです。自分の漫画・アニメといえば「巨人の星（星飛雄馬）」だったのかな。もうこの世代は、取り上げられることもないようですね…